

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会（第2回）

議事概要

1. 日 時：平成28年12月20日（火）13：25～15：20
2. 場 所：川湯観光ホテル ラピュタホール
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○北海道環境生活部環境局 石島 カ 局長 挨拶

■議題

（1）阿寒国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2020（案）について

○環境省から資料1及び参考資料に基づき説明。

○意見等の概要

【釧路市 名塚副市長】

- ・本ステップアッププログラムについて、ブランディング戦略も入れていただき、アクティビティの充実やストレスフリーなどの方向性も示されており、具体的な実施に大いに期待したいし、活用できる事業メニューの紹介や事業メニューそのものを作っていたりなど今後の事業支援をお願いする。
- ・当市議会においても本プロジェクトへの関心が高く、阿寒摩周国立公園への名称変更も予定されていることから、阿寒摩周国立公園を象徴するロングトレイルなどの阿寒・摩周両地区を結びつけるような取組も進めていただきたい。

【環境省 安田所長】

- ・阿寒国立公園には広域観光協議会もあるので、そうした場で検討を進めていただければと考えている。

【美幌町 那須主幹】

- ・本ステップアッププログラムは、各部会での議論を通じて関係者の想いがつまったものになったと考えている。次は、いかにプログラムを実行していくかである。
- ・関係する11市町が連携して盛り上げていくことが大事と考えている。今をスタートラインとして、11市町及び関係機関と情報交換しながら連携して実行していきたい。

【清里町 櫛引町長】

- ・本ステップアッププログラムを地域としてどう活用していけるのか、それが一番大事だと考えている。このような協議会も発足し、今後より緊密に連携できると考えている。
- ・国立公園の名称変更と同時に本町の「神の子池」を含むように区域変更もお願いしている。本ステップアッププログラムはその点も踏まえた表現になっていると認識しているが、どこかの時点で、国立公園を満喫するプログラムの一つとして「神の子池」を盛り込んでいただければありがたい。

【環境省 安田所長】

- ・国立公園の区域の拡張についても、概ね目途はたってきた。今回のタイミングでは個別名称を挙げることはできなかったが、本ステップアッププログラムの中では「神の子池」も含めるような形で整理している。

【小清水町 森田副町長】

- ・当町は地域連携という形で、本ステップアッププログラムに参加するものと認識している。当町はこれから観光に取り組もうとしているところであり、情報交換しながら協力していきたい。

【大空町 阿部主幹】

- ・当町は国立公園区域の端に位置するため、広域的な取組の中で相互協力していきたいと考えている。当町には、国立公園区域内ではないが芝桜まつりを開催している「ひがしもこと芝桜公園」があり、何か連携できるものがあると考えている。
- ・アクセスルートに関しては、女満別空港が含まれていることから、案内板など本ステップアッププログラムに貢献できるものがあると考えている。
- ・ガイドの育成は重要だと考えている。今はスマートフォンで各種情報が入手できる時代だが、人を介した案内や誘導が役に立つと認識している。例えば、国立公園全体をガイドできるような人の派遣を可能にするなど、広域での体制を本ステップアッププログラムの中で考えていくことも必要ではないか。予算的な問題もあると思うが、ハード面での整備だけでなく、ガイドやツアープログラムなどのソフト面も充実させていく必要がある。
- ・施設整備については、まちなみ景観が気になる場所である。旅行会社から温泉地の建物について指摘されることが多く、対応が必要だと認識している。

【環境省 安田所長】

- ・ガイドの育成は大事である。いくつかメニューはあるが、実施主体がどこになるのかが一番の課題と考えている。
- ・まちなみ景観については、これまで手が付けられなかった部分もあり、本プログラムに基づき改善手法を含め検討していければと考えている。

【足寄町 阿久津町長】

- ・本国立公園が満喫プロジェクトに指定されたことはタイムリーなことであり、これを契機に地域全体で着実に取り組んでいきたい。
- ・例えばオンネトーについて、当町には何も権限はないものの、何もしないとどうなるかわからないという思いもある。オンネトーで観光的な収入が得られなくてもよいと考えているが、国民的な財産であるすばらしい自然を、外国の方や国内の方に訪れてもらいたい。

【環境省 安田所長】

- ・自然環境はお金では評価できないものであり、利用のあり方を見直すことも必要かと考えている。

【標茶町 池田町長】

- ・本ステップアッププログラムは、恵まれた自然をどう守るのかということが重要であると考えている。
- ・本ステップアッププログラムには富裕層という言葉が多く出てくる。民間の方が富裕層をターゲットとするのは良いと思うが、あまりにいろいろな箇所に富裕層と出てくるのはよいのだろうか。国立公園はもっと多くの人に利用してもらうべきではないかと思う。
- ・本ステップアッププログラムには JR 釧網線が出てこない。空路だけではなく鉄道も大事なのではないかと思うので、JR 釧網線を何らか位置づけることが必要ではないか。
- ・我々が観光客を誘致するときに心配するのは医療体制である。安心して来てもらうためには、その点も重要ではないか。
- ・当町にメジャーな資源はないが、メジャーな資源からのトリクルダウンを期待している。

【環境省 安田所長】

- ・自然は資源であり、持続的な利用が重要と考えており、本ステップアッププログラムでも、9ページでまず自然の保護を第一に記載している。またその中で、安心・安全ということにも触れている。
- ・富裕層については、利用者層全体の底上げにもつながるという有識者からの助言に基づき、本ステップアッププログラムでターゲットのひとつとして記載している。
- ・JR 釧網線については、今後の議論の場で検討していけるのではないかと考えている。

【弟子屈町 徳永町長】

- ・本ステップアッププログラムにより、一番変わらないといけないのは、弟子屈、摩周、川湯、屈斜路湖などの地域と考えている。地域として頑張っ取り組んでいくので、よろしく願いたい。

【白糠町 澤野部長】

- ・当町は国立公園に直接的には接しておらず、後方支援をする立場と考えている。
- ・現在の空港民営化の議論も踏まえると、新千歳空港を核として、釧路、女満別、中標津の3空港を活用していくことが必要と考えている。道東道も整備されたところであり、今後も観光活性化に向けて取り組んでもらえればと考えている。
- ・9ページにまず自然の保護が打ち出されているが、本ステップアッププログラムでは「再整備」という位置づけのものもあるため、財源を確保しながら各種整備が進めばと考えている。

【中標津町 西村町長】

- ・当町の関係では、中標津町からスタートし弟子屈に到達するロングトレイルがある。開始当初は利用者数が読めなかったが、最近は大いぶ増加し外国人も増加してきた。こうした新しい取組を進め、新しいお客さんを掘り起こすことが重要と考えている。
- ・サイクリングについては、高価な自転車を持ってくる方も多いのでサポート体制が必要である。また、ガイドも含めた受入体制も必要である。
- ・5ページで阿寒国立公園の利用者数が減少しているとある。なぜ減っているのか、どういった理由なのか、それを受けてどうプログラムをまとめたのかを教えてください。

【環境省 安田所長】

- ・利用者数の減少については様々な要因があると思われるが、団体旅行から個人旅行への変化といったことなどが主な要因として言われている。

【北海道観光振興機構 生川次長】

- ・全国的に個人旅行化してきており、北海道はその対応に遅れているという認識である。当機構においても、「ひがし北海道3つ星街道」や「さいはて ReBirth プロジェクト」など、着地型の商品を若者の視点や外部の視点も盛り込みながら進めている。
- ・当機構としては、マーケティングや情報発信の部分について、既存の支援メニューを活用いただき、磨き上げを進めてほしいと考えている。
- ・ツアープログラム開発、広域連携による観光地づくりを、道などと連携しながら進めていきたい。

【環境省 安田所長】

- ・本ステップアッププログラムについても、個人旅行化を踏まえ、ツアープログラム開発や質の高い滞在環境の整備等を打ち出しているところである。

【阿寒観光協会まちづくり推進機構 大西理事長】

- ・阿寒国立公園の利用者の減少については、2000年の航空法の改正で旅行形態が変化したことが大きい。阿寒国立公園は団体旅行を多く受けていたため、旅行形態が個人化する変化に対応出来なかった部分があった。こうした課題も踏まえ、本ステップアッププログラムが策定されたという流れが重要と考えている。
- ・阿寒国立公園の2015年の訪日外国人利用者は6.3万人とあるが、本地域における外国人宿泊者数の実態に比べるとやや乖離があるようにも思われる。また、目標値について、あまり小さいと国の政策とのギャップが生まれるのではないかと考えている。
- ・目標については、本来は国が掲げている訪日外国人旅行消費額8兆円に該当する目標が掲げられ、それに加えて人数が掲げられると良いのではないかと考えている。
- ・訪日外国人利用者数の目標値(15万人)については、次の段階ではトレッキングで何人、スキーで何人といった細分化を検討していく必要もあるのではないかと考えている。
- ・摩周地域から阿寒地域まで、サイクリングやロングトレイルなどでつなげるような取組が実現しないかと考えている。
- ・質の高い観光地にするためには、民間投資を呼び込むことが必要である。しかし失われた20年で地域は疲弊しているため、地域の外から投資を呼び込むような政策も望まれる。

【環境省 石川課長】

- ・ 訪日外国人利用者数 6.3 万人について、観光庁の数値を基に、環境省本省において主要空港での聞き取り調査結果などを加味し推計したものである。
- ・ 訪日外国人旅行消費額については、現状における国立公園の数値が把握できていないため今回のプログラムでは数値目標として掲げることはできなかったが、その重要性は環境省本省においても認識し、関係の検討を進めていく旨を聞いている。そのような中でデータが出てくれば、今後の協議会等で引き続き議論していきたい。

【環境省 安田所長】

- ・ ご指摘のように地域の宿泊者数の実態とは乖離があるが、国立公園全体で同じ数値を使っているため、本ステップアッププログラムでは全体の整理にならない記載した。
- ・ 大事なのは現状の何倍を目指すかということであり、データは今後も整備等を進めていくのでご理解いただきたい。

【摩周湖観光協会 中嶋会長】

- ・ 民間を中心に今後いかに本ステップアッププログラムを展開していくかということについて、例えばアイヌ文様を活用した共通のユニフォームを作るなども一案ではないか。沖縄のかりゆしウェアのイメージである。阿寒国立公園の共通のユニフォームについて、広域観光協議会の中で議論していければと考えている。
- ・ 厳しい状況が続く中ではあるが、本ステップアッププログラムには期待している。摩周湖観光協会の取組を進めていきたい。

【前田一步園財団 新井田理事長】

- ・ 9 ページで示されている自然の保護が第一という考え方について、今後の整備においてもその考え方が生かされることが大事である。
- ・ 本ステップアッププログラムでは、この5年間に整備することだけでなく、重要なことや検討課題も挙げられている。これらの課題をどう整理し、解決・実現していくのか、それを本ステップアッププログラムの中で明らかにしていただければと考えている。

【環境省 安田所長】

- ・ それぞれに検討課題あると思っており、これをスタートに取り組んでいきたい。

【北海道経済産業局 小貫課長】

- ・ アイヌ文化を体感するツアープログラムの開発などが挙げられているが、2020年の白老の象徴空間整備の流れで、阿寒は広域関連区域としてアイヌの歴史、文化を道内、海外に発信していく役割が期待されている。北海道の中で、象徴空間の中核区域と関連区域などでネットワークを形成し、伝えたい魅力を世界に伝える取組を着実に展開していただければと思う。我々も応援できるところは応援していきたい。
- ・ 今回の5年間のプログラムにおいて、2017年はツアープログラム開発の全体構想とりまとめ、プロモーション戦略の策定など重要なターニングポイントになる年である。地元熱意、地元目線の発想だけでなく、外の目線で磨き上げをしている人、国別の嗜好をつかんでいる人の知見も活用して、取組を深めていただければと思う。支援できるメニューがあれば提示していきたい。

【北海道森林管理局 中村部長】

- ・ これから本ステップアッププログラムの取組を進める上では国有林の利活用が出てくると思う。対応は迅速にしていきたい。また、こちらからもアイデアを出して進めていきたいと考えている。
- ・ 本エリアには冬の観光資源も多くある。日本海側より雪は少ないかもしれないが、どのような滞在型のアクティビティを作れるかが重要と考えている。最近、国有林の利活用について、開発を伴わないキャットスキーのような利用が一部の市町村では始められている。そういったアイデアも皆で出し合えればと考えている。

【北海道運輸局釧路運輸支局 畑中支局長】

- ・ 本ステップアッププログラムは、阿寒国立公園の強みを踏まえた今後の取組が示されたものであり、本日はスタート地点に立ったところと認識している。
- ・ 検討にあたっては、ターゲットを常に意識して欲しい。また他の国立公園や東北北海道を牽引するものになって欲しいと考えている。また、定期的な見直しもして欲しい。具体的な施策や目標値の見直しも必要になってくると思う。
- ・ 広域周遊ルートやビジットジャパン地方連携事業などと連携しながら必要な支援をしていきたい。

【北海道開発局開発監理部 平野課長】

- ・ インバウンドの取組について、今まで以上に連携しながら進めていきたい。
- ・ 今年3月に策定された新たな北海道総合開発計画においても、観光はこれからの北海道を支える強みとして重要な位置づけとなっており、重点的に取り組む所存。

【北海道開発局釧路開発建設部 梅沢部長】

- ・ これからの進め方について、今後、個別テーマの検討、例えばサイン類や統一的なユニバーサルデザインなどの検討については、ワーキングを設置するなどにより自由な議論をして早めの方針を決めるような取組をして欲しい。その中で、道の駅の情報マップや国道の英語表記等で協力していきたい。
- ・ 本ステップアッププログラムで使われているデータについて、根拠をしっかりとって欲しい。経済指標等のデータ公表も年に1回ではなく、環境省のいろいろな規制等も含めホームページ等で公表されればと考えている。
- ・ 国立公園周辺は酪農を含めて農業の盛んな地域であるので、周辺の人々との交流やアイヌの方から直接話が聞けるような体験プログラムづくりを行って欲しい。人と人との心を通わせるようなプログラムづくりには積極的に参加していきたい。

【環境省 安田所長】

- ・ 検討体制は、各取組の状況に応じて柔軟に対応していくのがよいと考えている。
- ・ ホームページについては充実を図っていきたい。
- ・ 酪農や農業との連携による人と人との関わり等については、アクティビティの中で具体的に検討していければと考えている。

【環境省 安田所長】

- ・ 皆様から一通り発言をいただいた。今後の見直しもあるという前提で、地域協議会としてステップアッププログラムを了承したということで良いか。

(一同了承)

【環境省 石川課長】

- ・ 今後は定期的に地域協議会や地域部会を開催し、本ステップアッププログラムの各取組の進捗について確認していく予定である。進め方については、ご意見を踏まえつつ柔軟に対応していきたい。

■閉会

○環境省釧路自然環境事務所 安田 直人 所長 挨拶

以上